

平成 29 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価（案）

令和元年 7 月
札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市のアイヌ施策の推進状況について、平成 29 年度札幌市アイヌ施策年次報告書を基に、札幌市アイヌ施策推進計画の施策目標ごとに以下のとおり、検証評価する。

1 施策目標：市民理解の促進

～ 伝統文化の啓発活動の推進、教育等による市民理解の促進

<29 年度事業の進捗>

○市民を対象とした手芸・工芸・エコツアー等のアイヌ文化体験講座の開講（18 回、参加者 228 名）、アイヌ文化交流センターにおいてアイヌミュージック・古式舞踊・ムックリ・刺繍等製作体験・昔遊び等のイベントの開催（6 回、参加者 1,212 名）、アイヌ民族古式舞踊（輪踊り）の披露（1 回、参加者 171 名）、小中高校生団体体験プログラム（57 校、参加者 4,013 名）、小中高校生団体出前体験プログラム（24 校、参加者 2,185 名）を提供し、子どもから大人まで幅広くアイヌ伝統文化を体験する機会を設けることができた。

○公共空間を利用した情報発信では、さっぽろ夏まつり「ふるさと応援 PR ステージ」におけるアイヌ文化交流センターの紹介やアイヌミュージックの披露、さっぽろ雪まつり「チ・カ・ホイベント」におけるアイヌ伝統文化体験（トンコリ演奏体験・ブレスレット制作体験等）・工芸品販売を行った。平成 28 年度に引き続き、アイヌモニュメントタペストリーを札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）、JR タワー1 階西コンコース及び札幌市役所本庁舎 1 階に掲出したほか、市民参加によるアイヌアートモニュメントの制作を行い丸井今井札幌本店にアイヌ文様大型タペストリーを設置し、多数の市民がさまざまなアイヌ民族の伝統文化や歴史に触れる機会を提供することができた。

○平成 28 年度に引き続き、小学 4 年生及び中学 2 年生の授業において副読本等を用いてアイヌ民族の歴史と現在について学習を行ったほか、札幌市職員や教職員を対象に各種研修等を行い、施策目標である「教育等による市民理解の促進」を進めることができた。

○アイヌ文化を発信する空間の整備事業では、「アイヌ文化を発信する空間の整備検討事業」を具現化し、地下鉄南北線さっぽろ駅コンコース部を世界都市さっぽろの玄関口、アイヌ文化の導入口としてふさわしい空間とするため、これまで整備構想、基本設計、展示計画案を踏まえて、平成 29 年度は実施設計、ベース部分の整備工事（交通局）及び大型ディスプレイ等の設置を行い、設置するシンボル展示及び実物展示の制作を依頼する作家や具体的な作品内容等について、有識者等の専門的見地から意見を聴取した。

○関連事業

- ・「第 43 回「将棋の日」 in 札幌」公開対局イベントアトラクションでは、オープニングアトラクションとして、札幌アイヌ協会の協力によりアイヌ古式舞踊が披露された。
- ・札幌芸術の森美術館において、「現れよ。森羅の生命－木彫家 藤戸竹喜の世界」が開催され、熊や鹿などの俊敏な動きをとらえた初期作から、アイヌ民族の歴史と威厳をモニュメンタルに伝える等身大人物像、そして本展のために制作されたエゾオオカミをモチーフにした最新作までを一堂に展示し、70 年にわたる創作活動の軌跡をふりかえった。
- ・札幌国際芸術祭 2017 のプログラムとして、「マレウレウ祭り in SIAF2017～目指せ 100 万人のウポポ大合唱」、「raprap」、「コタンペッププロジェクト」等の関連企画を実施した。

<委員からの意見>

- ・副読本の配布・活用方法について、北海道と札幌市の連携の中で、折衝・接触の機会を通じて、全道的な取り組みとして有効利用されるように働きかけていただきたい。
- ・市職員及び市教員の採用試験にアイヌに関連した問題を載せていただきたい。

2 施策目標 : 伝統文化の保存・継承・振興

～アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進、伝統文化活動の推進

<29 年度事業の進捗>

○アイヌ文化交流センターでは、伝統家屋や生活民具の継続展示や伝統文化活動を披露するイベント等を開催した。同センターの来館者は 53,006 人（平成 28 年度 51,165 人）、展示室の観覧者は 18,891 人（平成 28 年度 19,754 人）であり、展示室の観覧者は減少したものの、来館者は増え、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」を推進することができたと認められる。

○アイヌの伝統的生活空間再生事業（イオル再生事業）では、清田区内の市有地において、アイヌ民族に関係の深い樹木や植物を栽培・育成管理したほか、体験講座を開催し（民具づくり・伝統料理の調理と試食・子ども遊び：開催回数8回、参加者総数139名）施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」を推進することができたと認められる。

<委員からの意見>

・アイヌ文化交流センターの展示室の観覧者について、前年度比で減少しているが、「見て触れて体験できる施設」であることを周知徹底し、観覧者を増加させるべきである。

3 施策目標：生活関連施策の推進 ～産業振興等の推進、生活環境等の整備

<29年度事業の進捗>

○さっぽろ雪まつり期間中に開催された札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）イベントにおいて、民芸品の展示販売スペースでの試行販売を実施し、コーナー全体で12,913人が来場した。

○教育・就職・住宅・医療介護等の相談に対応する生活相談員2名・教育相談員1名を配置し、29年度は2,782件の相談があったほか、アイヌ民族の児童・生徒に対する学習支援として、夏休み、冬休み期間中に、教育関係者やボランティア等による学習会を開催した結果、延べ61名の参加を得るなど、計画に沿った取組みが行われたと認められる。

<委員からの意見>

・民芸品、工芸品の販売について、インバウンドが増加しているのでスペースを確保することは急務である。また、インターネット販売の導入についても検討すべきである。

・住宅新築資金等の貸付について、市中金利を踏まえ、他の自治体の例を参考にし、貸付を受ける方の事情等を考慮した制度の検討をすべきである。

・アイヌ文化を伝承するための雇用対策を実施すべきである。

4 今後について

委員からの各個別意見について適切に検討することを求める。